

スポット  
ニュース

## 「令和元年度 東濃地科学センター 地層科学研究 情報・意見交換会」(「情報・意見交換会」) 開催のお知らせ

瑞浪超深地層研究所を中心とした計画では、当機構の第3期中長期計画に基づき、地下坑道における工学的対策技術の開発、物質移動モデル化技術の開発及び坑道埋め戻し技術の開発について、平成27年度から令和元年度末までの5年間で成果を出すことを前提に取り組んできました。

今年度の情報・意見交換会では、上記の研究開発の最終年度にあたるため、これまでの「研究開発の成果」や「今後の進め方」等を、ご紹介することにしています。

参加を希望される方は、参加申込用紙に必要事項をご記入の上、11月8日(金)までに、電子メールにて、ご送付ください。

### <1日目>「情報・意見交換会」(定員約150名)

開催日：令和元年11月20日(水) 13:00~16:45

場 所：瑞浪市総合文化センター 講堂 3階 (岐阜県瑞浪市土岐町7267-4)

### <2日目>「瑞浪超深地層研究所見学会」(定員40名)

開催日：令和元年11月21日(木) 9:15~12:00

場 所：瑞浪超深地層研究所 (岐阜県瑞浪市明世町山野内1-64)

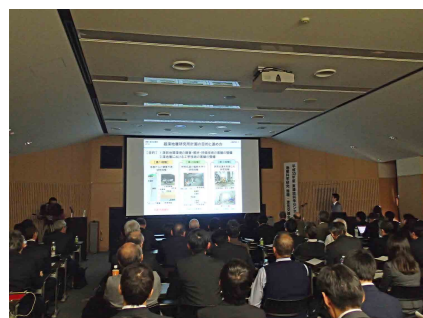
申し込み多数の場合は先着順とさせていただきます。あらかじめご了承ください。  
なお、プログラム、参加申込用紙は下記からダウンロードできます。

● 「情報・意見交換会」プログラム

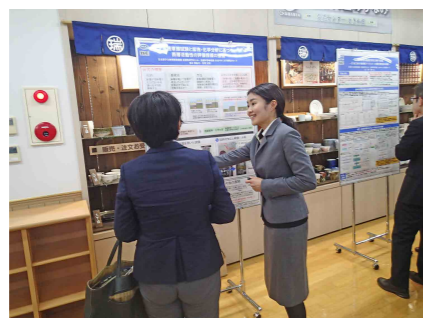
[https://www.jaea.go.jp/04/tono/topics/topics1910\\_1/program.pdf](https://www.jaea.go.jp/04/tono/topics/topics1910_1/program.pdf)

● 参加申込用紙 (電子メールにて下記連絡先まで)

[https://www.jaea.go.jp/04/tono/topics/topics1910\\_1/moushikomi.pdf](https://www.jaea.go.jp/04/tono/topics/topics1910_1/moushikomi.pdf)



会場 (平成30年度)



ポスターセッション (平成30年度)

### « 「情報・意見交換会に関する連絡先»

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構  
核燃料・バックエンド研究開発部門  
東濃地科学センター

地層科学研究部 研究計画調整グループまで

☎ 0572-66-2244 (代表)

✉ tono-koukankai2019@jaea.go.jp

原子力機構公式 Twitter  
[https://twitter.com/jaea\\_japan](https://twitter.com/jaea_japan)



原子力機構の Twitter では研究  
成果やイベント情報などをお知らせ  
しています。



## 11月の主な作業予定

### 【瑞浪超深地層研究所】

- ① 表層水理定数観測(地下水位・土壌水分の観測)
- ② 狭間川における流量観測及び研究所周辺井戸での水位観測
- ③ 研究坑道の排水等の環境管理測定
- ④ 研究坑道の湧水に含まれるふっ素、ほう素を排水処理設備で除去後に排水
- ⑤ 研究坑道内におけるボーリング掘削・試験・観察(国からの受託業務)
- ⑥ 研究坑道内における傾斜計を用いた岩盤の変位計測、重力計測及び応力計測(東濃地震科学研究所との研究協力)
- ⑦ 研究坑道内におけるニュートリノ捕捉用原子核乾板の保管(名古屋大学への施設貸与)
- ⑧ 坑内外設備の維持管理(換気立坑キブル及びスカフォードワイヤーロープの交換作業)

### <ボーリング孔を用いた地下水の観測>

地下水の水圧・水質観測	地下水の水圧観測
◆ 地表(5孔)	◆ 深度200mボーリング横坑 (主立坑側1孔、換気立坑側1孔)
◆ 深度200m,300m,400m予備ステージ(各1孔)	◆ 深度300mボーリング横坑 (換気立坑側3孔)
◆ 深度300m研究アクセス坑道(2孔)	◆ 深度300m研究アクセス坑道(1孔)
◆ 深度300mボーリング横坑(換気立坑側5孔)	◆ 深度500m研究アクセス南坑道(1孔)
◆ 深度300m研究アクセス坑道(1孔)	
◆ 深度500m研究アクセス北坑道(9孔)	

### 【正馬様用地】

- ① 地表からのボーリング孔(2孔)を用いた地下水の水圧・水質観測
- ② 表層水理定数観測(地下水位の観測)

## 瑞浪超深地層研究所の地下を体験しよう!

瑞浪超深地層研究所では、地下深部を体験できる施設見学会を開催します。

参加をご希望の方は事前申込が必要となりますので、11月18日(月)までに住所、氏名、電話番号を左記の連絡先までお知らせください。また、申し込み多数の場合は締切り前に受付を終了させていただくこともありますので、ご了承ください。

【日 時】令和元年11月23日(土) 9:30~12:00

【内 容】深度300mステージ

【対 象】小学校4年生以上

工事現場での安全の確保のため、**小学生の方は4年生以上で保護者同伴**でお願いします。また入坑の際は、安全装備(つなぎ服・反射ベスト・ヘルメット・安全長靴・軍手・坑内 PHS など)を着用して頂きます。工事現場ですので、狭くて急な階段等もあります。**階段の昇降等が困難な方など自立歩行に支障のある方や高所、閉所恐怖症の方などは研究坑道に入坑できない場合がありますので、事前にご確認をお願いいたします。**また、**飲酒されている方、妊娠中の方、体調がすぐれない方はご遠慮**いただいております。

予約後であっても**工事や現場の状況により入坑できなくなる場合がありますので、予めご了承ください。**



エレベータ(主立坑)



### « 地層研ニュースに関するご意見・ご要望および施設見学会の連絡先 »

【連絡先：東濃地科学センター 総務・共生課 まで】

☎ 0572-66-2244 (代表)

☎ 0572-68-7717

✉ tono-ck@jaea.go.jp (ご意見・ご要望)

✉ tono-kengaku@jaea.go.jp (施設見学会) 《東濃地科学センターHP》



# 「瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定書」第2条に基づく排水水等の測定結果（令和元年9月分）

【採取日：排水水、河川水、湧水（令和元年9月5日）】

測定項目	管理目標値	工事排水水	狭間川下流
水素イオン濃度	6.5～8.5	7.1	7.1
浮遊物質	25以下	1未満	2
カドミウム	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満
全シアン	検出されないこと※7	ND(0.1未満)※8	ND(0.1未満)※8
有機燐化合物	検出されないこと※7	ND(0.1未満)※8	
有機燐			
鉛	0.01以下	0.005未満	0.005未満
六価クロム	0.05以下	0.02未満	0.02未満
砒素	0.01以下	0.005未満	0.005未満
総水銀	0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満
アルキル水銀	検出されないこと※7	ND(0.0005未満)※8	ND(0.0005未満)※8
PCB	検出されないこと※7	ND(0.0005未満)※8	ND(0.0005未満)※8
トリクロロフルン	0.01以下	0.001未満	0.001未満
テトラクロロフルン	0.01以下	0.0005未満	0.0005未満
四塩化炭素	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満
クロロフルン(別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー)			
ジクロロメタン	0.02以下	0.002未満	0.002未満
1,2-ジクロロエタン	0.004以下	0.0004未満	0.0004未満
1,1,1-トリクロロエタン	1以下	0.0005未満	0.0005未満
1,1,2-トリクロロエタン	0.006以下	0.0006未満	0.0006未満
1,1-ジクロロフルン	0.1以下	0.002未満	0.002未満
ジ-1,2-ジクロロフルン	0.04以下	0.004未満	0.004未満
1,2-ジクロロフルン			
1,3-ジクロロプロパン	0.002以下	0.0002未満	0.0002未満
チウラム	0.006以下	0.0006未満	0.0006未満
シマジン	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満
チオベンカルブ	0.02以下	0.002未満	0.002未満
ベンゼン	0.01以下	0.001未満	0.001未満
セレン	0.01以下	0.002未満	0.002未満
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	0.35	0.34
ふっ素	0.8以下	0.41	0.20
ほう素	1以下	0.47	0.20
塩化物イオン			
1,4-ジオキサン	0.05以下	0.005未満	0.005未満
アミン、アミン化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	—	0.35	

【単位：mg/L（水素イオン濃度はpH）】

※1 参考値	※2 立坑の湧水	※3 狭間川上流
—	8.3	7.1
		3
0.003以下	0.0003未満	0.0003未満
検出されないこと※7	ND(0.1未満)※8	ND(0.1未満)※8
0.01以下	0.005未満	0.005未満
0.05以下	0.02未満	0.02未満
0.01以下	0.005未満	0.005未満
0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満
検出されないこと※7	ND(0.0005未満)※8	ND(0.0005未満)※8
検出されないこと※7	ND(0.0005未満)※8	ND(0.0005未満)※8
0.01以下	0.001未満	0.001未満
0.01以下	0.0005未満	0.0005未満
0.002以下	0.0002未満	0.0002未満
0.002以下	0.0002未満	
0.02以下	0.002未満	0.002未満
0.004以下	0.0004未満	0.0004未満
1以下	0.0005未満	0.0005未満
0.006以下	0.0006未満	0.0006未満
0.1以下	0.002未満	0.002未満
0.04以下		0.004未満
0.04以下	0.004未満	
0.002以下	0.0002未満	0.0002未満
0.006以下	0.0006未満	0.0006未満
0.003以下	0.0003未満	0.0003未満
0.02以下	0.002未満	0.002未満
0.01以下	0.001未満	0.001未満
0.01以下	0.002未満	0.002未満
10以下	0.090	0.34
0.8以下	7.4	0.08未満
1以下	1.4	0.02未満
—	290	
0.05以下	0.005未満	0.005未満

※4 参考値	※5掘削土の 溶出量(主立坑)	※5掘削土の 溶出量(換気立坑)
0.01以下		
検出されないこと※7		
検出されないこと※7		
0.01以下		
0.05以下		
0.01以下		
0.0005以下		
検出されないこと※7		
0.03以下		
0.01以下		
0.002以下		
0.002以下		
0.02以下		
0.004以下		
1以下		
0.006以下		
0.1以下		
0.04以下		
0.002以下		
0.006以下		
0.003以下		
0.02以下		
0.01以下		
0.01以下		
0.8以下		
1以下		
0.05以下		

主立坑の掘削作業を行っていないため掘削土の測定はありません  
換気立坑の掘削作業を行っていないため掘削土の測定はありません

- ※1 河川水や湧水は、環境基本法に定められた基準を参考値として自主管理を行っています。また、測定結果については、放流先河川の状態の把握や排水処理設備の運転の参考としています。
- ※2 立坑の湧水の値は、排水処理設備でふっ素・ほう素を除去する前の値です。排水処理後は狭間川へ排水します。
- ※3 狭間川上流は排水水が流れない場所での採水のため、測定値は狭間川そのものの水の値となります。
- ※4 掘削土の溶出量は、土壌汚染対策法に定められた基準を参考値として自主管理を行っています。測定結果の評価については、参考値と比較し参考値を超えないことを確認しています。
- ※5 掘削土の測定は、検定（測定）用の水溶液の中に掘削土を入れて溶け出した物質の量を測定します。この水の中に溶け出した物質の量のことを溶出量といいます。
- ※6 空間放射線線量率は、花木の森散策路の空間放射線線量と比較するため、周辺地域の空間放射線線量率（機構が瑞浪・土岐市内の12地点で測定）を参考値としています。また、測定結果の評価については、周辺地域の空間放射線線量率と比較し、その最大値を超えないことを確認しています。
- ※7 「検出されないこと」とは、測定項目ごとに定められた検定（測定）方法で測定した結果が当該検定方法の定量限界を下回ることを表します。
- ※8 NDとは測定値が検出できないほど微量か、またはゼロであることを表します。測定結果のカッコ内の数値は検出限界値を表します。

花木の森散策路における空間放射線線量率	参考値(令和元年6月11日～令和元年9月11日)※6	測定結果(令和元年6月11日～令和元年9月10日)
	0.06～0.10μSv/h 3ヶ月の集積空間放射線線量から算出 周辺地域(土岐・瑞浪市内12地点) の測定値	0.06μSv/h 3ヶ月の集積空間放射線線量から算出 周辺地域の測定値と同等

## 排水水等の塩化物イオン濃度の測定結果(9月)

【採取日：週2回】 (単位：mg/L)

測定項目	狭間川上流	立坑の湧水	工事排水水	明世小学校前取水口
塩化物イオン濃度	1.5～1.7	290～310	280～320	28～150
※( )内は月平均の値を示す (有効数字2桁 (3桁目は切り捨て)	(1.6)	(300)	(300)	(93)

◆ 塩化物イオンについては、「排水基準」や「環境基準」などの法的な規制はありませんが、濃度の高い水を稲作に長期間使用した場合には、稲の発育に影響が出るという研究事例があります。千葉県農業試験場の論文・文献などでは、稲は塩化物イオン濃度が500mg/L以下の水を使用していれば、被害が発生する可能性が少ないことから、「安全基準」として300～500mg/Lが記されています。

研究所からの排水水等には天然由来の塩化物イオンが含まれています。狭間川の下流域においては、河川水を稲作に利用していることから、上記の「安全基準」にもとづき、明世小前取水口における河川水濃度として月平均300mg/L以下を目安に管理しています。なお、月平均300mg/Lを超える、又は超えると予想される場合には直ちに耕作の方々にお知らせします。また、これが長期間に及ぶと予想される場合は、500mg/Lを超える前までに「専用設備」による処理などの必要な対策を講じます。